

今日のみことば

□ 11月27日(日) マルコ 5章

長血の女をいやされ、ヤイロの娘をいやされて出来事を通してイエスは、主の時は遅すぎることはない。イエスは立ち止まって、告げる時を待っておられる。

□ 11月28日(月) マルコ 6章

ヨハネの死はイエスに暗い影を落とした。疲れを覚えるイエスの下に求めてくる人々のため、少しのパンと魚で五千人以上の人々を養われた。

□ 11月29日(火) マルコ 7章

イエスはユダヤ人指導者たちに、自分たちのしきたりよりも神の教えの大切なことを、愛の教えのほうにもっと心を配るよう教えられた。

□ 11月30日(水) マルコ 8章

イエスが語られたパン種の喩えは、パリサイ人の偽善とヘロデ党の世俗主義でしたが、これはいつの時代でも、主の民が警戒しなければならないことです。

□ 12月1日(木) マルコ 9章

イエスをご自分が十字架にかかって殺されることを語られたが、地上の王国のことばかり考えていた弟子たちには理解できなかった。一番偉いのはだれか。

□ 12月2日(金) マルコ 10章

主はエルサレムで成就される十字架の御業のことで、そのみ心はいっぱいであった。弟子たちに主は、神の国における最大の祝福は自分を低くして仕える者にあたえられる、と。

□ 12月3日(土) マルコ 11章

人々は、イエスのエルサレム入城を喜んで迎えた。イエスをご自分が約束された救い主であること明らかにされた。イエスは信じて祈るならそれは成ると言われる。

ろ ぼ No. 1791
2016年 11月27日
日本バプテリスト教会
牧師 大川 博之

コリント第二 8:9

あなたがたは、わたしたちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は豊かであったのにあなたがたのために貧しくなられた。それは、主の貧しさによって、あなたがたが豊かになるためだったのです。

主イエス・キリストの降誕を喜び祝う降誕祭を待つ、待降節に入ります。キリストの誕生は、造られたすべての者の大いなる喜びの日です。そのお方はベツレヘムの馬小屋の飼い葉桶に寝かせてであると告げられました。何と驚くべき知らせなのでしょう。全世界の救い主の誕生の知らせです。神は独り子イエスを送られて私たちの救い主とされました。人間の常識から言えばその誕生は王宮でしょう。現に東の国から救い主誕生の星を見てやって来た学者たちが、まず訪問したのはヘロデ王の王宮でした。釈迦は王宮の出身でした。であるのに、イエスがユダヤの大工ヨセフの子として、旅の空で宿屋が見つからなかったとはいえ、馬小屋とはいったいどうゆうことなのか。

私たちはいろいろと神の思いを思い巡らせていただくことでした。

パウロがマケドニアの諸教会の人たちの、捧げ物について書いた文書を読みながら、み言葉に生きるクリスチャンたちがどのように信仰に生きてきたかを聞くときに、救い主誕生の出来事が、いかに私たちの生き方を導いているかを覚えさせていたはずにはおれませんでした。ピリピ教会を例にとればリディアと言う婦人を中心にした教会です。コリントやアンテオケみたいな都会の教会ではありません。田舎の小さな教会でさまざまな苦しみをしっかり受け止めながら、施しをすることを喜び

としていたと言われるのです。その彼らの思いは「主が豊かであったのに、私たちのために貧しくなられた。それは主の貧しさによって、私たちが豊かになるためであった」との思いから出たものでした。神の慈しみは何もないところにも豊かに注がれている。「激しい試練を受けていたのに、その満ち満ちた喜びと極度の貧しさがあふれ出て、人に惜しみなくほどこす豊かさとなった」というのです。私はいかに、マケドニアの諸教会が神と向き合って、キリスト誕生を喜んでいたかを思い起こさせていただくのでした。神の独り子が馬小屋で、誕生されなければならなかったのか。神の救いとは何なのでしょう。

イエスの誕生は馬小屋でなければならなかったのです。ヘロデ王の人口調査のためベツレヘムの宿屋がいっぱいであったと言う理由だけではありません。御子イエスは徹底して貧しくならなければなりません。私たちが救われるためです。ヘブル書の記者は「この大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではなく、罪を犯されなかったが、あらゆる点において、わたしたちと同様に試練に遭われたのです」(ヘブ4:15)としました。それがキリスト・イエスです。

「神は私たちのつらさを理解することはできない」と言うことがあります。イザヤは「彼は軽蔑され、人々に見捨てられ、多くの痛みを負い、病を知っている／彼は自らをなげうち、死んで、罪人のひとりに数えられた。多くの人の過ちを担い、背いた者のために執り成したのは、この人であった」(イザ53:3, 15)と言うのです。キリストは私たちのすべてを負われるため貧しくなられました。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————
詩篇 73 偽りのない礼拝の喜び

この詩篇でアサフは、神の聖所に入るまで、なぜ義なる方が正しい者が困難を耐え、悪人が繁栄するのを許しているのが理解できなかった。神を信じることは価値あることであろうか。信者でない友人が非常に成功してよい生活をしている。万事がうまくいっている。それなのに信者である自分の生活は何と苦勞が多いことであろうか。神は本当に自分のために配慮して下さっているのだろうか。信仰が沈むばかりでした。

彼が聖所に行ったときこの問題は解決されました。彼はすべての問題を神のみもとの持って行きました。神の目でそれらを見ると、悩みはなくなりました。信仰なき人うらやむのではなく、あわれむべきなのだと言うことを知りました。いずれ公正な裁きがなされる日が来ることを知ったとき、彼は神の知恵を認識しました。神が共にいて下さることこそ、真の慰め、力です。



Read God's Word.